HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	女子教育の問題
Author(s)	成島, 喜美子
Citation	北海道大學教育學部紀要, 3, 106-110
Issue Date	1955-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/28981
Type	departmental bulletin paper
File Information	3_P106-110.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

女子教育の問題

成島喜美子

1. 調査の趣旨

現在行われている男女共学制度下の女子教育の問題について検討する場合，測定によって，結論を出す方法がある。問題点を出し今後の女子教育の方向とその目的をつかもうとするのである。この調査は，札幌市の道立西高等学校と北高等学校の教育を受けている女子生徒357名について調査を行い，諸問題についての意見を得，その結果の概要を述べて見た。この調査の意図する所は男女共学の実施されている高等学校の教育の現状に対して，女子生徒は如何なる意見をもっているか，それを将来大学進学志望の女子高校生と就職を希望している女子生徒を比較し検討して見た。

2. 調査対象

この調査の対象は，道立札幌西高等学校と北高等学校の女子生徒である。この内，西高等学校は生徒数404名に対して193名，48％，北高等学校466名に対して164名，35％を調査の標本とした。次に調査標本抽出数を表に表わすと，

第1表

西高等学校					北高等学校				
希望＼学年	1	2	3	計	希望＼学年	1	2	3	計
進学	25	33	15	73	進学	19	10	32	61
就職	36	23	39	98	就職	21	35	33	89
家事	9	9	4	22	家事	9	2	3	14
計 N	140	140	124	404	計 N	146	162	158	466
計 n	70	65	58	193	計 n	49	47	68	164

備考 表のNは生徒数，nは標本数を示す，調査質問用紙の配布は，11月18，19日に実施した結果，質問用紙の配布数に対する回収率は，西高等学校配布数200に対する回収率は97％，北高等学校配布数190に対する回収率86％であつた。

3. 調査結果の概要

学習意欲を促す要素として，学習場面の快，不快の感情がある。学科，教師に対する好悪も勿論であるが，教室の対人関係も学習の動機づけとして，見逃すことは出来ないと思う。(1)異性と同じ教室で勉強する時。(2)混合学習の能率は，こうした意味の意見を求めた結果である。この場合大部分の生徒が，異性に対して圧迫とか反撥とかを感ずることが少いのである。

(1) 異性と同じ教室で勉強する時 「( ) 内の数字は％」

	進学		就職		家事		計	
不快	5	(3.73)	4	(2.1)	0	(0)	9	(2.52)
不快でない	64	(47.76)	87	(46.5)	9	(25.0)	160	(44.81)
どちらでもない	64	(47.76)	95	(50.8)	26	(72.2)	185	(51.82)
無答	1	(0.75)	1	(0.6)	1	(2.8)	3	(0.84)

（2） 混合学習の能率

	進学		就職		家事		計	
勉強しにくい	7	(5.2)	15	(8.02)	0	(0)	22	(6.16)
勉強し易い	18	(13.4)	15	(8.02)	9	(25.0)	42	(11.76)
普通に出来る	103	(76.9)	145	(77.6)	26	(72.2)	274	(76.75)
無答	6	(4.5)	12	(6.41)	1	(2.8)	19	(5.32)

（3） 次の教科目について男女間に能力の差があると思うか

対象した学科は一般教養科目とした。能力差，学力差を生徒個人について，あるいは集団について検討することは，学力テストや能力調査による方法がある。この方法は生徒から抽出された学力，能力そのものを基礎として指導に役立てるためである。ここで問題にしたのは，男女共学制の学級で学習を進める際，男女間に能力の差をどの程度感じているかである。能力の差は日々の学習において討議や課題発表の際，相互間で行われる質問や解答が直接生徒に影響を与え，関心の対象となっている点だと思う。

数学

	進学		就職		家事		計	
差がある	96	(71.64)	161	(86.1)	29	(81.0)	286	(80.11)
差がない	19	(14.2)	14	(7.48)	3	(8.33)	36	(10.08)
わからない	17	(12.7)	10	(5.34)	2	(5.55)	29	(8.12)
無答	2	(1.4)	2	(1.06)	2	(5.55)	6	(1.68)

国語

	進学		就職		家事		計	
差がある	15	(11.2)	11	(5.9)	1	(2.77)	27	(7.56)
差がない	104	(77.6)	155	(82.9)	31	(86.1)	290	(81.23)
わからない	12	(8.7)	18	(9.6)	1	(2.77)	31	(8.68)
無答	3	(2.4)	3	(1.6)	3	(8.4)	9	(2.52)

理科

	進学		就職		家事		計	
差がある	70	(52.23)	109	(58.2)	23	(63.0)	202	(56.50)
差がない	27	(20.2)	26	(13.9)	4	(11.1)	57	(15.96)
わからない	35	(26.11)	45	(25.7)	7	(19.5)	90	(25.20)
無答	2	(1.49)	4	(2.2)	2	(5.6)	8	(2.24)

社会

	進学		就職		家事		計	
差がある	26	(19.5)	32	(17.2)	10	(28.0)	68	(19.04)
差がない	80	(59.7)	109	(58.2)	17	(47.2)	206	(57.70)
わからない	25	(18.6)	43	(23.0)	8	(22.2)	76	(21.30)
無答	3	(2.2)	3	(1.6)	1	(2.7)	7	(1.96)

英語

	進学		就職		家事		計	
差がある	47	(35.1)	95	(50.8)	18	(50.0)	160	(44.80)
差がない	58	(43.3)	71	(38.0)	10	(28.0)	139	(38.90)
わからない	25	(18.7)	16	(8.5)	6	(16.7)	47	(13.20)
無答	4	(2.9)	5	(2.7)	2	(5.5)	11	(3.10)

以上の教科目の内3科目について，教科に対する能力について男女間の差の有無の判定が，進学を希望する者と就職を希望する者とで違いがあるかどうかをχ^2検定によって調べてみた。

数学については

	進学	就職	計
差がある	96 (71.64)	161 (86.1)	257
差がない	19 (14.2)	14 (7.48)	33
計	115	175	290

$\chi^2=4.6645$

ところで，$Pr\{\chi^2 \geqq 3.841\}=0.05$ 自由度1であるから，進学を希望している者と就職を希望する者とでは，数学についての能力の判定は同じであるとはいえない。

$\chi^2=0.0111$

ところで，$Pr\{\chi^2 \geqq 0.016\}=0.90$ 自由度1であるから，進学を希望する者と就職を希望する者とでは，社会科についての能力の判定にちがいがあるとはいえない。

社会について

	進学	就職	計
差がある	26 (19.5)	32 (17.2)	58
差がない	80 (59.7)	109 (58.2)	189
計	106	141	247

英語については

	進学	就職	計
差がある	47 (35.1)	95 (50.8)	142
差がない	58 (43.3)	71 (38.0)	129
計	105	166	271

$\chi^2=3.987$

ところで，$Pr\{\chi^2 \geqq 3.841\}=0.05$ 自由度1であるから，進学を希望する者と就職を希望する者とは，英語についての能力の判定は同じであるとはいえない。

特別教育活動における男女の協力と活動として，特別教育活動は将来の社会人を育成するためには，生徒に社会的環境を与え，教科学習よりも，より綜合的な課題をより自由な形で学ばせようとする教育領域である。社会的条件として最もふさわしい男女共学制のもとで，女子高校生は協力しているかをみようとしたのである。

(4) ホームルームにおける男女の協力では全体では協力するが49％をしめている反面，どちらでもないという無関心な生徒が29.7％となっている点は，まだ女子には消極的な面が残っているのではないだろうか。

(5) 生徒会，クラブ活動においても同様のことがいえるのである。

ホームルームにおける男女の協力

	進学	就職	家事	計
協力する	72 (53.7)	91 (48.6)	12 (33.0)	175 (49.01)
協力しない	21 (15.6)	34 (18.9)	8 (22.2)	63 (17.64)
どちらでもない	38 (28.3)	54 (28.8)	14 (38.0)	106 (29.70)
無答	3 (2.3)	8 (4.2)	2 (6.5)	13 (3.64)

生徒會クラブ活動に協力しますか

男女同一のクラブ

	進学	就職	家事	計
協力する	78 (58.2)	112 (59.0)	17 (47.0)	207 (57.90)
協力しない	4 (3.0)	7 (3.8)	1 (2.7)	12 (3.36)
どちらでもない	45 (33.5)	55 (29.4)	15 (42.0)	115 (32.20)
無答	7 (5.2)	13 (6.9)	3 (8.3)	23 (6.44)

女子だけのクラブ

	進学		就職		家事		計	
協力する	62	(46.2)	105	(56.0)	18	(50.0)	185	(51.82)
協力しない	8	(6.0)	10	(5.4)	2	(5.6)	20	(5.60)
どちらでもない	51	(38.1)	53	(28.3)	13	(36.1)	117	(32.77)
無答	13	(9.7)	19	(10.2)	3	(8.3)	35	(9.80)

教科の選択について，生徒は自己にとって必要な教科を把握することが出来るであろうか，全数では誤った者27.7％，よかった者57.9％となっている。志望別にみると進学志望者より就職希望する者が誤ったという者が多い。

(6) 現在選んだ選択教科目について選択方法を…

	進学		就職		家事		計	
誤った	29	(21.64)	60	(32.1)	10	(27.0)	99	(27.73)
よかった	89	(66.4)	98	(52.4)	20	(56.1)	207	(57.98)
わからない	15	(11.1)	25	(13.3)	6	(16.7)	46	(12.88)
無答	1	(0.74)	4	(2.2)	0	(0)	5	(1.40)

次に教科選択について，誤ったと思う者とよかったという者の判定が，進学希望者と就職希望する者とで違いがあるかどうか x^2 検定により調べてみた。

$x^2=5.485$

であるから，$Pr\{x^2 \geqq 5.412\}=0.02$　自由度1であるから，進学を希望する者と就職を希望する者では，教科選択について選択方法の判定は同じであるとはいえない。

	進学		就職		計
誤った	29	(21.64)	60	(32.1)	89
よかった	89	(66.4)	98	(52.4)	187
計	118		158		276

高校の女子生徒として

(7) 特にどんなことを勉強したいか（又はしたかったか）

	進学		就職		家事		計	
家庭科	11	(5.16)	39	(13.49)	12	(26·09)	62	(11.31)
職業科	0	(0)	31	(10.73)	2	(4.36)	33	(6.02)
社会	22	(10.34)	40	(13.84)	3	(6.53)	65	(11.86)
国語	24	(11.26)	25	(8.66)	4	(8.69)	53	(9.67)
数学	25	(11.74)	18	(6.23)	1	(2.17)	44	(8.02)
音楽	31	(14.56)	18	(6.23)	1	(2.17)	50	(9.12)
英語	42	(19.72)	46	(15.91)	8	(17.39)	96	(17.51)
書道	21	(9.86)	34	(11.76)	8	(17.39)	63	(11.49)
その他	27	(12.67)	21	(7.27)	2	(4.34)	50	(9.12)
無答	10	(4.69)	17	(5.88)	5	(10.87)	32	(5.83)

進学，就職と将来の進む方向によって，勉強したい科目が異っている点から，コース別に級を編成することが望ましいと思う。

(8) 現在の家庭科の學習について

男女共学制になり一番問題になっている家庭科について，女子高校生はどのような意見をもっているのか調べてみた。

	進学		就職		家事		計	
今迄のやり方でよい	42	(31.34)	110	(58.82)	20	(55.50)	172	(48.20)
時間数を多くしてほしい	7	(5.22)	15	(8.02)	3	(8.33)	25	(7.00)
時間数が少くてよい	14	(10.44)	14	(7.50)	1	(2.80)	29	(8.12)
無答	71	(53.0)	48	(25.66)	12	(33.33)	131	(36.70)

次に家庭科に対する批判が，進学志望者と就職を希望する者とでは，違いがあるかどうか x^2 検定により調べてみた。

$x^2=0.646$

ところで，$Pr\{x^2 \geqq 0.455\}=0.50$ 自由度1であるから，進学希望者と就職を希望する者とでは，家庭科に対する批判に違いがあるとはいえない。

	進学	就職	計
今迄のやり方でよい	47 (36.56)	125 (66.84)	172
時間数が少くてよい	14 (10.44)	14 (7.5)	28
計	61	139	200

(9) 男女共學のよい点は何か

二，三の項目を挙げて，女子高校生として男女共学制を実施してよい点を挙げさせてみた。

	進学		就職		家事		計	
お互い理解し合える	55	(37.2)	150	(61.2)	18	(50.0)	223	(52.0)
楽しく学校生活が出来る	30	(20.3)	35	(14.3)	5	(13.8)	70	(16.31)
勉強するのに興味が出た	21	(14.1)	23	(9.3)	2	(5.6)	46	(10.72)
その他	20	(13.5)	6	(2.5)	1	(2.7)	27	(6.3)
無答	22	(14.9)	31	(12.7)	10	(27.7)	63	(14.7)

全体数から見ると，異性への理解を深めたと思う生徒が52％を示しており，楽しい学校生活が出来る者16.3％となっている。「その他」の項目に学力向上を指摘している生徒が多かった。

(10) 男女共學で改めたい点は何か

この質問にも，二，三の項目を挙げて調べてみた。

	進学	就職	家事	計
女子の教養や技能を身につける点	38 (26.57)	83 (40.7)	12 (29.2)	133 (34.3)
女子のための施設の点	28 (19.58)	28 (13.7)	9 (21.95)	65 (16.8)
男子が女子に対する態度	35 (24.47)	44 (21.6)	8 (19.5)	87 (22.42)
改める点がない	15 (10.48)	19 (9.3)	2 (4.87)	36 (9.3)
その他	14 (9.79)	13 (6.4)	3 (7.3)	30 (7.73)
無答	13 (9.09)	17 (8.3)	7 (17.07)	37 (9.53)

女子の教養や技能を身につける点を改めたいと答えた生徒が34％，男子が女子に対する態度22.4％である

結び

調査を集計した結果，男女共学制度は学力向上，社会的な面からみても望ましいが，女子の特性を伸ばすための家庭科の問題や，進学希望者と就職希望者と勉強したかつた科目が異つている所から希望別級編成にするかカリキュラムを改善するかの問題がある。女子の教養や技能を身につけることを希望している者が多いのをみても，また選択教科目を誤ったという者が就職希望者の中に32％いたことから生徒に対するガイダンスや課外指導が必要である。

3. About the Problems of Female-education.

By Kimiko Narushima

In my study about the problems of female-education in co-education institution, I have adopted the method of producing conclusions by measurement, because I have wished to grasp the direction and aims in female-education by this method.

This is only a summary of my research concerning the 357 school-girls of both the West-High School and the North High School here in Sapporo, Hokkaido, Japan.

4. Physical Training of Girl-students.

By Sumio Minakawa

I measured the fundamental physical strength of the high school students in Sorachi province and examined these results with the average of the whole country. I found that they were inferior in the fundamental physical strength to that of the whole country.

I think that this is the important thing in the guidance of the physical education in this province, their causes must be inquired into, and the special methods of the physical education must be tried on them.

I believe that this inquiry must give us the important data as we constitute the curriculum of the physical education.

5. Analytical Study of "General Study" in High-school Textbook.

By Masami Takahashi

Under the system of the authorized textbook, the present day textbook must be based on the course of Study.

But it is a problem how it must be based on.

Textbooks, approved by the Educational Department, are published by many publishing companies of textbooks.

Therefore it goes without saying that contents of each texbook differ from each other just as each editorial staff of publishing companies differ. Because of this it is assumed that the extent of control of the Course of Study for textbooks must differ. To inquire into such difference of textbooks concerning this matter. I selected the text books of